文化財通信くまもと

第２号
1991.3
熊本県教育委員会

夏女遺跡57号住居跡

は　じ　め　に

文化財通信くまもとの創刊号でお知らせしましたが、調査係では平成元年度に21遺跡の調査を実施しました。すべての遺跡で貴重な資料を得たわけですが、第２号では紙面の都合上この中から調査第１係（農業基盤整備事業に係る調査を担当）で発掘調査を実施した14遺跡のうち、特に注目を集めた７遺跡をとりあげ御紹介します。

夏女（なつめ）遺跡
（第１次）

所 在 地	球磨郡錦町大字木上字夏女
調査面積	約1,400㎡

夏女遺跡は、球磨川右岸の高原台地（たかんばる）にあり、球磨カントリークラブの西側一帯に広がっています。この調査は、県営農免農道整備事業にともない、事前調査としておこないました。試掘調査の結果、かなり良好な弥生時代の集落があることがわかりました。農道の事前調査のため道路の幅（７ｍ×200ｍ）で発掘をおこないました。確認された遺構は、弥生時代後期の竪穴住居跡51軒、土器溜１基、時期不明の土壙１基、溝２条でした。これら遺構のなかから、おびただしい量の土器や石器が見つかりました。この他珍しいものとして、青銅製の鏡、鉄で作ったやじり、木を削る道具のやりがんな、お祭などに使ったと思われるミニチュア土器が出土しました。これらからみても、かなり大規模な集落跡であるとおもわれます。おそらく、人吉・球磨地方の拠点集落としての性格をもつものと考えられます。

○竪穴住居跡

今回の調査で、計51軒の竪穴住居跡を確認しましたが、重なり合いや調査区の外にのびているものが多く、正確には言えませんが、大きく３つに分けることができます。

長方形の住居跡

平面の形が長方形で、２本の柱をもっています。中央に炉を、壁にそってＬ字型やコの字型の一段高いベッド状の遺構を備えています。このベッド状の遺構は、県北のものと比較して40～50cmとひじょうに高いものです。

長方形の住居跡

円形住居跡

今回の調査区のほぼ中央部に重なり合うかたちで９軒の円形住居跡を確認しました。これらは大型で直径は6 ～８ｍもありました。柱は２本・４本・６本と様々で、やはり周囲に一段高いベッド状の遺構をもっていました。

円形住居跡

小型の住居跡

調査区の一部は、近世の開墾で上部を削られたあとが見られました。そこに縦横約２～３ｍの小型の住居跡が数軒ありました。柱のないものや２本のものが有り中央に炉をもっています。掘り方は10～20cmと浅く、もともと小型の住居跡なのか、それとも長方形の住居跡のベッド状遺構の上部が削られて下の部分が残ったものかはいまのところ分かりません。

とにかく、この遺跡の面白い点として同時代のいろいろな住居跡が重なりあっているというところにあると思います。

○土器溜（だめ）

１基だけですが、土器溜（ごみ捨て場）がありました。地面を10～20cm掘りくぼめ、そこに多量の土器片、石器などが捨てられていました。当時は生ごみなども捨てられていたとおもわれます。

土器溜にすてられた土器や石器

○溝

調査区を南北に横切る形で２本の溝がありました。埋まっていた土の色から、もっと後の時代のものとおもわれます。

○おもな出土遺物

青銅鏡

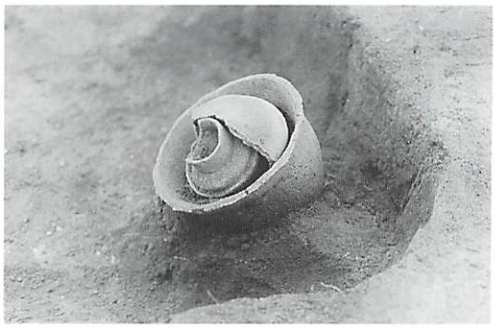
円形住居跡（23号住居跡）から、青銅で作られた鏡が出土しました。これは非常に貴重なもので、当時はだれでも持てるというものではなく、北九州と交流をもつかなりの有力者がいたものとおもわれます。

鏡は直径約７cmで厚さ１～２mmあり、２個の紐を通す穴があけられていました。腐食がひどく模様がよくわかりませんが、おそらく内行花文鏡（ないこうかもんきょう）と呼ばれるものでしょう。

青　銅　鏡

組み合わされた小型土器

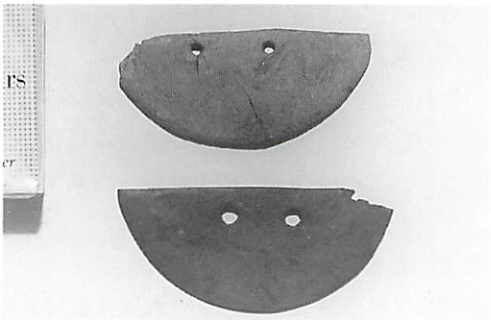
長方形の住居跡（２号住居跡）から、祭祀に使用されたと思われる４個体分の壺と甕とを組み合わせた土器が出土しました。高さ６cmの甕に高さ５cmの壺で蓋をし、それを高さ13cmの甕に納め、さらに壺で蓋をして、住居跡の壁ぎわにやや傾けて埋めてありました。どんなお祭（占い）がおこなわれたのでしょうか。



組み合わされた小型土器

その他の遺物

大型の壺、ミニチュア土器、鉄製のやじり、やりがんな、土製のおもり、打製石斧（だせいせきふ）、磨製石斧（ませい）、石製のやじり、免田式土器、砲丁　等



出土した石包丁

終わりに

平成元年度の調査は、予定の半分を行ったもので、あと半分を残しています。今回は元年度の調査成果をのべました。２年度の成果は次回にお知らせします。

うてな遺跡

所 在 地	菊池郡七城町大字台（うてな）
調査面積	約3,000㎡

うてな遺跡は、菊池川の支流である内田川と迫間川とにはさまれた台地の西端（標高約73m）に位置しています。県営の畑総事業にともなう調査で、遺構は広い範囲におよぶものの、水路と工事により削られる部分に限って調査が行われ、弥生時代から室町時代までの遺構を確認しています。

○弥生時代後期から古墳時代前期までの集落跡

台地西北端を中心に、直径約300mの範囲に広がっており、現在までに約80軒の竪穴住居跡と集落を囲む溝（環濠）の一部が７ヶ所で見つかっています。

竪穴住居跡は、長方形で中央部に炉が作られ、長軸方向に２本の柱穴があり、壁ぎわに貯蔵穴を持っています。また壁に接して一段高いベッド状遺構も設置してあります。住居のうち１戸は、大型（5.75m ×8.5m）であることから、集会所など共同で使用した家と考えています。

見つかった遺物は、壺・甕など日常的な土器のほか、ジョッキ型土器や、注ぎ口のついた船型土器などのほか、装飾品として土製勾玉や土製丸玉、収穫具として鉄製の手鎌や鎌などが出土しました。特に珍しいのは、貨泉という中国で作られたお金が発見されたことで、おそらく宝物として、紐を通してぶら下げていたのかもしれません。

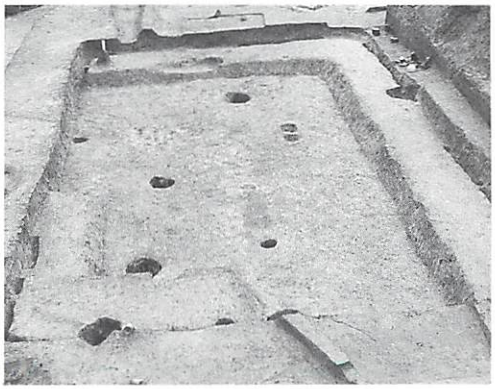
貨　泉

鉄　鎌

○古墳時代前期の方形周溝墓（ほうけいしゅうこうぼ）

集落跡の西方から、方形周溝墓という四角の溝で囲んだ墓が発見されました。中心に箱式石棺があり、一辺11.5mの溝がめぐっていました。この一帯には多数の方形周溝墓が埋もれているものと思われます。

また、集落跡の南東方向から、舟形石棺を納めた一辺34mの大型の方形周溝墓が発見されましたが、これは強大な権力を持った人物の墓と考えられます。



大型の住居跡

○その他の主な遺構

奈良・平安時代の集落跡（竪穴住居跡約150軒と掘立柱建物跡20数棟）や、鎌倉・室町時代の墳墓なども確認しました。

灰塚古墳（はいづか）

所 在 地　鹿本郡菊鹿町大字池永字池田小字柳迫
調査面積　　約800㎡

この地区で、県営畑総事業が行われることになりました。その際重機によって内部主体の一つである石蓋土壙墓（いしぶたどこうぼ）の蓋が破壊されたことで急に調査を行うこととなりました。古墳は、工事がかなり進行していたため、周囲がごく僅か残され、塔のようになっていました。

調査を進めると、非常に変わった古墳であることがわかりました。まず、古墳の表面には葺石（ふきいし）とよばれる自然の丸石が置かれていました。これは、盛土の流出を防ぐために、丁寧な造作が加えられたものでしょうか。

しかし、残念なことに残っていた部分が非常に少なかったため、古墳の形はわかりませんでした。内部の方には死者を納めていた棺が二つありました。一つは、土を掘りこんで棺にし、上に石の蓋を被せた石蓋土壙とよばれるものです。もう一つは木をくりぬいて棺にした木棺墓とよばれるものです。いずれも中には人の骨がまだ残っていました。二つの棺は中も外も赤色の顔料が塗られていました。このように丁寧な葬り方をしているにもかかわらず、普通なら死体といっしょに納めてあるはずの品物が一つもありませんでした。ただ石蓋土壙を覆っていた粘土の中にあったと思われる鉄製の道具が3点ほど壊された土の中にありました。

この古墳は、現地にそのまま残す事ができない状況でしたので、この地区の人々の要望もあり、石蓋土壙の石蓋だけを地区の公民館の裏に移しました。現在は、覆いの屋根を作って、説明板も作ってあります。

調査前の古墳のようす

石蓋を移築したようす

人骨出土のようす

水次遺跡（みつぎ）
岡田遺跡

所在地	菊池郡七城町大字水次	調査面積	約5,000㎡
	菊池郡七城町大字岡田		約5,000㎡

二つの遺跡は、菊池川の右岸にあるうてな台地の南縁部に位置しています。菊池川中流域は古代遺跡が多く存在することで知られ、大規模な遺跡である「うてな遺跡」「流川遺跡」もすぐ近くにあります。

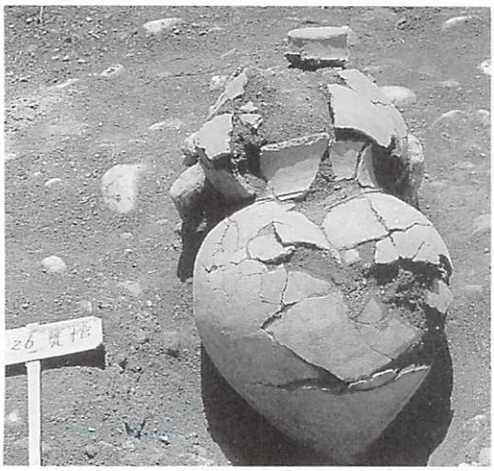
○水次遺跡

現在の水次集落の北側の高台にあり、発掘調査によって次のような遺構や遺物が見つかっています。

- 縄文（じょうもん）時代　早期　押型文（おしがたもん）土器
- 弥生（やよい）時代　前期～中期　甕棺（かめかん）　墓壙（ぼこう）
- 古墳（こふん）時代　方形周溝墓　円墳（えんぷん）
- 中世　溝遺構

このうち、水次遺跡B地区は「ハヤマ塚」の調査を実施し、主体部が安山岩の板状の石材を組み合わせた箱式石棺（はこしきせっかん）であることが分かったほか、版築（はんちく）（いく層にも土をつき固めること）された盛土やくびれ部を持つ周溝なども確認しています。

このほか、川原石や凝灰岩を組み合わせて作った箱式石棺も出土しています。



水次遺跡甕棺

○岡田遺跡

下岡田集落の北側の高台にあり水次遺跡に続き発掘調査を行なったものです。その結果次のような遺構や遺物が、見つかっています。

- 縄文時代　早期　押型文土器
  　　中期　竹崎式（たけざき）土器
- 弥生時代　前期～中期　甕棺　土壙
- 古墳時代　中期　住居跡

縄文時代中期の土器として、底部に4～5個の脚を持つ特色で知られる竹崎式土器が多量に出土しており、貴重な資料になるものと思われます。

また甕棺群は、縄文時代から弥生時代に移る頃のお墓で、甕や壺の組み合わせからなっているものです。北部九州の例に見られるように食物を副葬したと思われる小型の壺が出土したほか、内部からは朝鮮半島で作られたと見られる30個近くの碧玉製の管玉も出土しており注目を集めています。

岡田遺跡調査風景

西左敷遺跡（にしさじき）
小無田鶴Ⅱ遺跡（こむたづる）

所在地	阿蘇郡久木野村久石
調査面積	西左敷遺跡　約2,500㎡
	小無田鶴Ⅱ遺跡　約4,500㎡

遺跡は、南阿蘇の久木野村にあり、外輪山と白川との間に位置しています。平成元年７月から平成２年２月にかけて調査を行い、旧石器時代から江戸時代にわたる幅広い時代の遺構や遺物を確認しています。

〔西左敷遺跡〕

地表下２ｍ弱の褐色の粘質土の中から、旧石器時代のスクレーパー（皮剝ぎや切断などに使う石器）を発見しました。同じ層から、同時に10点のチップ（石屑）と炭化物の広がりを確認していることから、周辺に旧石器時代人の生活の面があったことは確かなことのようです。阿蘇山の周辺では、北外輪の大観峯などで旧石器時代の遺跡が確認されていますが、南郷谷では初めての発見です。なお、詳しい年代は今後の分析を待たなければなりませんが、少なくとも今から２万年以前に遡るものと考えています。

このほかの遺構では、縄文時代のものとして早期の石組み炉を１基、前期の貯蔵穴を９基、晩期の住居跡１軒、また中世の掘立柱建物跡３棟、江戸時代の水路跡などを確認しています。

縄文早期の石組み炉

〔小無田鶴Ⅱ遺跡〕

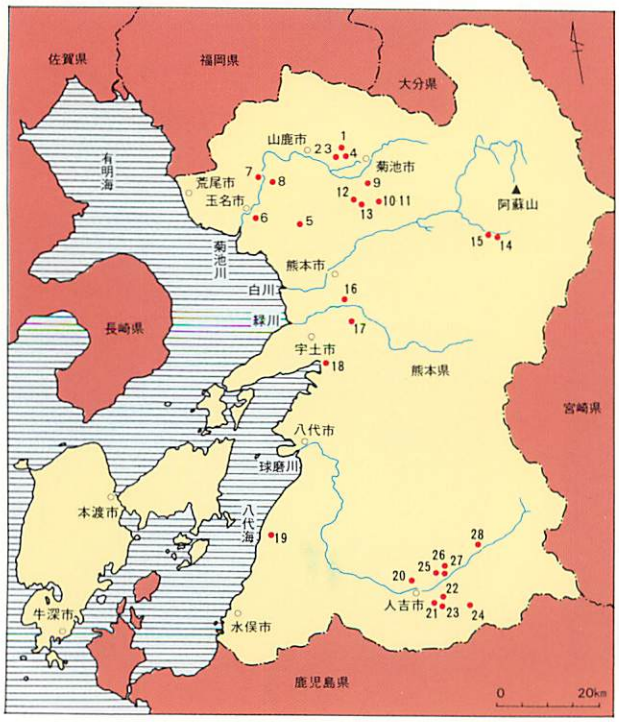
この遺跡の周辺には「ミヤンザムライ」（宮の侍？）という地名が残ることから、中世期の遺構の存在を予想しながら調査を進めましたが、その結果約70基の中世から近世にかけての墓が確認されました。土壙（穴）の形や深さの違いなどは、時代により様々ですが、そのうち中世末と思われる墓からは、短刀と約70枚の輸入銭（宋銭・明銭）を副葬したものが見つかるなど、当時の埋葬の方法を詳しく知ることができます。

この他に、遺物としては縄文時代早期・前期の土器、また遺構としては古墳時代前期～後期の住居跡12軒をそれぞれ確認しています。

中世墓の副葬品

平成2年度に調査した遺跡

No	遺跡名	所在地(立地)	事業名	調査期間	成果(時期)
1	鞠智城	鹿本郡菊鹿町 (台)	国庫	H2.4 ～H3.3	掘立柱礎石建物、掘立柱建物群(奈～平)
2	うてな	菊池郡七城町 (台)	畑総	H3.1 ～	竪穴住居跡(弥－後、奈、平)
3	〃	〃 (台)	道路改良	H2.10～	掘立柱建物、竪穴住居跡(奈～平)、道路跡(中)、方形周溝墓(古)
4	岡田	〃 (台)	ほ場	H2.9 ～12	遺物散布地(縄文－中～晩)、甕棺群(弥生－前～中)
5	下原	鹿本郡植木町 (台)	ほ場	H2.4	掘立柱建物、竪穴住居跡(奈～平)
6	中神久	玉名市安楽寺 (低)	ほ場	H2.4 ～5	遺物散布地(中)
7	宮の前	玉名郡菊水町 (段)	ほ場	H2.4～6･10～	竪穴住居跡(弥－中、奈～平)、甕棺群(弥－中～後)
8	塚坊主古墳	〃 (台)	風土記の丘	H2.10～H3.1	前方後円墳、横穴式石室、装飾古墳、青銅鏡、杏葉、鉄刀(古)
9	高江出分	菊池郡泗水町 (段)	畑総	H2.5 ～H2.10	竪穴住居跡(奈～平)、遺物散布地(縄－後･晩、古)、石囲い炉(縄－後･晩)
10	揚土	菊池郡合志町 (台)	畑総	H3.1 ～	掘立柱建物、竪穴住居跡(奈～平)、
11	峠	菊池郡合志町 (台)	畑総	H3.3 ～	掘立柱建物、竪穴住居跡(奈～平)、
12	上生・上の原	菊池郡西合志町 (台)	畑総	～H2.5	集石遺構(縄－早)、竪穴住居跡(弥－後、古)、掘立柱建物(古)
13	沖田	〃 (丘)	ほ場	H2.4	遺物散布地(縄－後･晩)、竪穴住居跡(古)、
14	柏木谷	阿蘇郡久木野村 (丘)	ほ場	H3.1 ～	竪穴住居跡(縄－晩、弥－後)、方形周溝墓(古)
15	原口Ⅲ	〃 (丘)	ほ場	H2.7 ～11	竪穴式住居跡(弥－後～古)、地下式土坑、土壙墓(中世)、掘立柱建物(近)
16	御幸木部	熊本市御幸木部町(河)	河川改	H2.8 ～H3.2	遺物散布地、土壙墓、溝(中)
17	黒橋貝塚	下益城郡城南町 (河)	河川改	H2.4～6･10～	ドングリピット(縄－中)、埋葬人骨22体(縄－後)、築(中)
18	鬼のいわや古墳	宇土郡不知火町 (丘)	農道	H3.3 ～H2.7	横穴式石室(古)
19	田浦城	芦北郡田浦町 (山)	農道	H2.7 ～9	城跡(中)
20	城馬場第2地点	球磨郡山江村 (丘)	県道	H2.4 ～7	遺物散布地(先、縄－早)
21	白鳥平Ⅰ	人吉市赤池水無 (丘)	道路公団	H2.7 ～	遺物散布地(先、縄－早)、集石遺構(縄－早)
22	人我胸	〃 (丘)	道路公団	H2.9 ～	遺物散布地、集石遺構(縄－早)
23	永谷	〃 (丘)	道路公団	H2.11～	遺物散布地、集石遺構(縄－早)
24	古屋敷	人吉市古屋敷 (山)	道路公団	H2.4 ～6	遺物散布地(縄－早･晩)、烽火台(中)
25	夏女	球磨郡錦町 (台)	農道	H2.7 ～H2.11	環濠集落、銅釧、青銅鏡(弥－後)
26	木上益手	〃 (台)	国営川辺	H2.9 ～H3.3	遺物散布地(先、縄－早･前)、集石遺構(縄－早)
27	木上大原	〃 (山)	農道	H2.12	土坑、遺物散布地(縄－早、平)
28	堂園	球磨郡須恵村 (丘)	畑総	H2.10～H3.1	遺物散布地(縄－早･後･晩)、竪穴住居跡(古)、土壙墓、越州窯青磁(平)



(凡　例)

1．立地については、それぞれ台地、丘陵地、山地、段丘、河川の頭文字をつけた。
2．成果の時期は、次のように記す。

先土器時代――――先　　奈良時代―奈
縄文時代　早期～晩期――　　平安時代―平
　縄―早、前、中、後、晩　　中　世―中
弥生時代　前期～後期――　　近　世―近
　弥―前、中、後
古墳時代――――古

(編集後記)

今回は調査第1係での調査の成果をお知らせしましたが、2係でも素晴らしい発見がありました。このパンフレットを通して皆様にはそのつどお知らせしていきたいと考えています。御意見、御感想をお待ちしています。

第　2　号
平成3年3月31日発行
発行　熊本県教育庁文化課
熊本市水前寺6丁目18－1
電話　096-383-1111番
内6715・6716
印刷　㈱　有明印刷

02	教委	教文
③	005－1	